

安全報告書

平成30年度（2018年度）



 仙台臨海鉄道株式会社

安全報告書(2018年度)

(この安全報告書は、鉄道事業法に基づき公表するものです)

当社の鉄道事業に対しまして、日頃のご利用とご理解を賜り、誠にありがとうございます。当社は、昭和45年11月に仙台港湾地区と内陸部を結ぶ物流を担うため、日本国有鉄道、宮城県及び進出企業の共同出資により設立され、昭和46年10月に東北本線陸前山王駅を接続駅として営業を開始してまいりました。

平成23年東日本大震災により壊滅的な被害を受けましたが、平成24年9月に全線再開を果たし、鉄道事業者として輸送の安全・安定輸送に社員一丸となって持続可能な会社としての経営基盤の強化に取り組んでおります。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、平成30年度における輸送の安全の確保に関する取り組みや安全の実態をまとめたもので、広くご理解いただくために公表するものです。

皆様の声を輸送の安全に役立てたく、率直なご意見等をいただければ幸いです。

仙台臨海鉄道株式会社

代表取締役社長 石崎 利夫

1. 安全基本方針

安全の理念

安全は、鉄道事業の最大の基盤である

「安全は鉄道事業の最大の基盤である」という理念を全社員が共有し、過去に発生した事故・事象の原因及び対策を風化することなく、教育・訓練を通して社員一人ひとりが安全について自発的に考え行動することで、目標である「安全最優先の職場風土」を確立し、より一層の輸送品質向上に努めてまいりました。

【 綱 領 】

- ① 安全の確保は、輸送の生命である
- ② 規程の遵守は、安全の基礎である
- ③ 執務の厳正は、安全の要件である



2. 安全活動指針

【「忘れるな」基本作業の大切さ】

社員から募集し投票により選定しました。

本社・現場で掲出し、朝礼・点呼時に唱和して安全意識の高揚を図りました。

3. 事故等の発生状況

(1) 鉄道運転事故

列車事故、踏切障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故の発生はありませんでした。

(2) 輸送障害

列車の運休や1時間以上の遅延の発生はありませんでした。

(3) インシデント

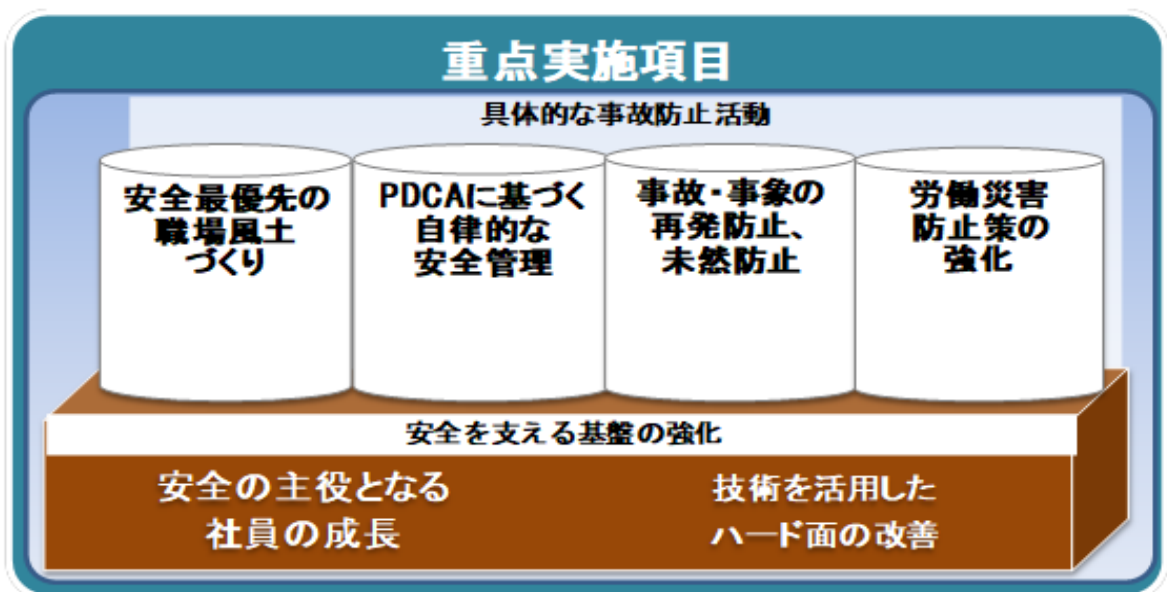
鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事象の発生はありませんでした。

4. 安全確保の取組み

全社員が「安全」に対する共通の認識を持ち、安全の理念及び目標達成に向け、安全実行計画を策定し取り組みました。

【具体的目標】

- 列車の衝突、脱線、火災などの重大な事故と、それに繋がる6つの特定事故の絶滅
- 死亡や重大な後遺症につながる労働災害の絶滅



5. 重点実施項目の実施内容

(1) 安全最優先の職場風土づくり

①安全に対する価値観の共有化

- ・全社員が、安全の理念を理解し一体となって取り組んでいます。

②重大事故を未然に防止する安全最優先の徹底

- ・列車等の運転に関わる異常を感じた時、危険と思った時は、直ちに列車、車両を止めることが、最も大切であることを徹底しています

③リスクを想像し、安全意識を高める

- ・事故の怖さを知り、自分の作業が抱えているリスクを想像し、安全に仕事を行う意識を高めています。

④ルールを理解して守る

- ・基本作業、基本動作には、過去の事故対策等が含まれており、正しい作業を実践することが安全最優先に繋がることを認識させています。

⑤安全に関する情報の共有化

- ・管理者・社員双方が、伝えること、聴くこと（受け止める）を意識し、コミュニケーションを図っています。
- ・毎月「安全だより」を発行し、情報の共有化を図っています。

⑥安全に関して、自発的な取り組みをする

- ・社員の自発的な行動により、安全最優先の職場風土を築いています。

緊急停止訓練



安全だより



(2) PDCAに基づく自律的な安全管理

①安全管理体制の強化

- ・「安全に関する自主チェックリスト」を活用し、安全に必要な改善を行い、結果を評価し、PDCAサイクルによる管理体制を実施しています。
- ・内部監査を実施し、安全管理体制の強化を図っています。

②運転従事員に対する資質管理の徹底

- ・点呼実施時に作業員の体調確認や作業の適性を厳正に確認しています。

(3) 事故・事象の再発防止、未然防止

①速やかな正しい報告と再発防止・風化防止

- ・正しく報告することが適切な対応と有効な対策となることを指導しています。
- ・過去の事故対策の意義・効果を風化させずに実行し、再発防止に努めています。

②ヒヤリ・ハットの活性化

- ・報告に対する迅速な回答と改善策を策定し、社員の気付きを掘り起こし、事故・事象や労働災害に繋がる芽を摘むことに努めています。

(4) 労働災害の防止

- ・5 S活動の推進、作業前の危険予知活動（KYT）を実施し、自職場で起きる可能性のある労働災害防止に取り組んでいます。

(5) 安全を支える基盤の強化

①知識・技能向上を目的とした教育・訓練

- ・教育・訓練の実施前に、主旨やねらいを認識させ、実施後は作業帯同やペーパーテスト等で理解度を確認しています。

②階層別研修の実施（一般社員・準管理者・管理者・現場長）

- ・安全最優先の職場風土の確立と安全マネジメント強化には、各職制の役割が重要なことから、「法令、安全・事故防止」を主眼とした教育を実施しています。

階層別研修



③機関車検修の技術継承

- ・SD55-103号の重要部検査工事を技術継承のため一部直轄により施工しました。
- ・機関車の定期検査

SD55-103号 車体分離作業



④設備関係

- ・臨海本線 踏切遮断機取替工事
- ・臨海本線 PCマクラギ交換工事
- ・仙台港駅構内コンテナ積卸場アスファルト舗装工事
- ・仙台西港線 中央幹線西踏切連接軌道工事

連接軌道工事前



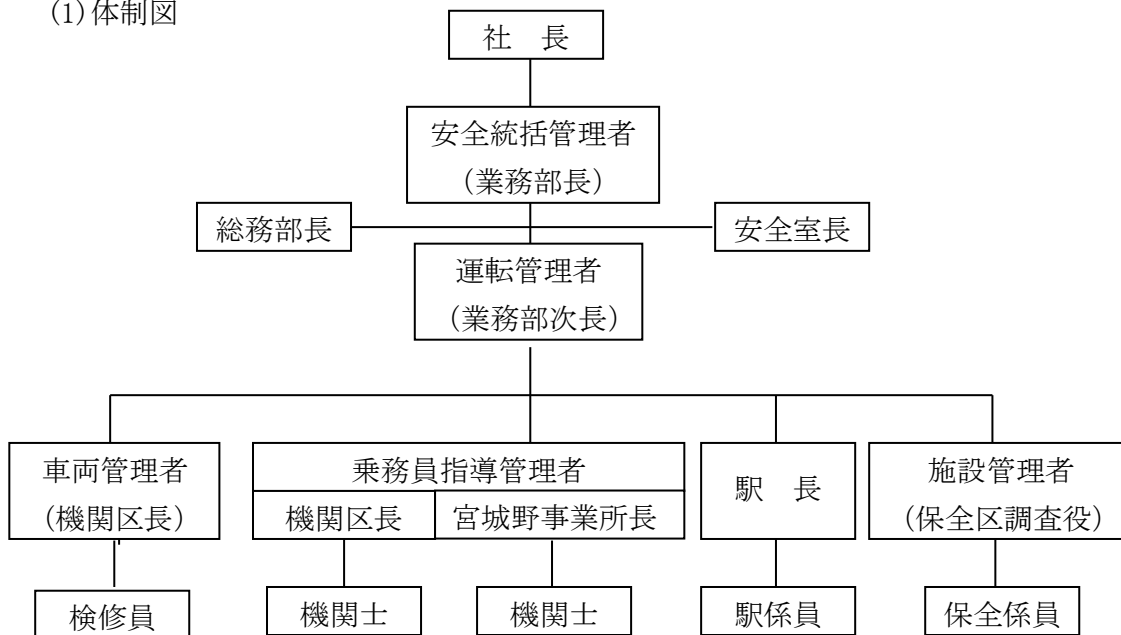
連接軌道工事後



6. 安全管理体制

当社における「安全管理規程」などの規則に基づき、社長をトップとする安全管理組織を構築・運用しています。この中で、安全統括管理者、運転管理者、車両管理者、施設管理者、乗務員指導管理者等が、それぞれの責務を明確にした上で、各現場での安全確保に努めています。

(1) 体制図



(2) 役割及び権限

	役 職 名	役 割
1	社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
2	安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
3	運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
4	乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、機関士の資質の保持に関する事項を統括する。
5	車 両 管 理 者	運転管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
6	施 設 管 理 者	運転管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
7	総 務 部 長	安全に係る予算計画、要員計画等、社員・設備の状況その他を総合的に統括する。

7. 安全管理の方法

(1) 安全推進会議

安全室長を議長に、役員・部長・現場長を構成員として毎月定例的に開催し、鉄道の安全に関する事項について審議し、運転事故の未然防止を主眼とした取組みを行いました。また、安全基本方針の重点実施項目の実施状況をP D C A手法に基づき検証を行ないました。

(2) 安全衛生推進者会議

主任安全衛生推進者（安全室長）を議長に、安全衛生管理担当者を構成員として年4回定期的に開催し、職場の安全対策及び保健衛生対策の推進を図りました。

(3) 職場巡回

本社幹部が毎月各現場に出向き、点呼立会い・巡回を行なうことで、安全に関する点検及び社員とのコミュニケーションを図りました。

8. 地域との連携

(1) 県・市・企業・住民が一体となり「みやぎスマイルポート活動」として7月・11月・3月に港湾地区の清掃活動を実施しました。

(2) 仙台港地区清掃奉仕活動を地区参加企業と共に7月に実施しました。

(3) 線路脇の除草を社員で実施しました。

(4) 全国交通安全運動の期間中に、踏切り道に隣接している幼稚園・小学校の子供たちや歩行者に対して、踏切り横断時の注意指導の啓蒙活動を行ないました。



9. 「お客様の声を かたちに！」

より安全で安定した輸送を行い、信頼される鉄道輸送体系構築のため、皆様のご意見などをお寄せください。

仙台臨海鉄道株式会社

〒983-0001 仙台市宮城野区港四丁目 11 番 2 号

TEL 022-258-5211 FAX022-258-7366

E-Mail sendai@s-rin.com